



図1. 北日本におけるヒメコウテンシの渡来地の分布

Fig. 1. Distribution of observation records of Greater Short-toed Larks in northern Japan.

せっからんど年報 2012). 2例目は農耕地で、丈の低い草地に身を低めて少しの間静止したり、小走りや道路沿いの雑草の種子のようなものを繰り返し採餌したりしていた(三沢野鳥の会 2013).

秋田県の観察記録は2013年4月28日に男鹿市船川港で初確認された1例のみである(日本野鳥の会秋田県支部 2013).

岩手県では、岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録(藤井・四ツ家 2008)に記載がなく(作山宗樹 私信)、それ以後岩手県では観察記録はない(藤井忠志 私信).

宮城県の観察記録は1例のみで、1991年5月4日石巻市(旧河北町)釜谷字谷地中、北上川で初めて確認された(日本野鳥の会宮城県支部 2002). 石巻市で本種が確認された場所は、北上川の河口から上流の右岸に位置する、釜谷集落の中にある低湿地帯であった。それ以後の観察例はない(竹丸勝朗 私信).

山形県では、毎年、4月下旬ころに酒田市飛鳥で定期的に観察されている。2013年には10羽程度観察され、同個体が2週間ほどいたようである。初記録の文献はない(築川堅治 私信).

これらをまとめると、北日本における本種が観察記録された時期は、4月-5月、12月-1月で、渡りの時期か越冬期である。観察された環境は、海岸や海岸性の草原、グランド芝地、農耕地の農道脇や休耕田など、開けた環境、という点が共通していた。

本種は近年、西日本での記録は珍しくなくなってきた(日本鳥学会 2012)が、今回、東北以北の記録をまとめてみると、西日本同様、日本海側での記録が多く、太平洋側での記録は多くない(表1, 図1)ことがわかった。ただし、多くないとはいえ、春国岱や仏沼では複数回観察されている(表1, 図1)ことは興味深い。そこで、これらの記録について、初認日と渡来日が一致するとは限らないので厳密なことはわ

表 1. 北日本におけるヒメコウテンシの観察記録一覧

Table 1. List of records of Greater Short-toed Larks in northern Japan.

記録 No.	初認日・ 確認された 期間	都道府県	地名	個 体 数	記録者	出典等	備考
1	1974.12 -1975.1	北海道	根室市春国岱	—	高野伸二 ・高田勝	高田 (1991)	藤巻 (2012) にも掲載。 春国岱での記録は海岸性の 草原が広がる春国岱第 1 砂 丘であった。この場所はヒ バリ類がよく観察される場 所でもある (外山雅大私 信)。
2	1985.5	北海道	根室春国岱	—	Mark Blazil	高田 (1991)	
3	2010.5.2	北海道	利尻島, 利尻高校 グラウンド芝地	2	村上賢治 ・小杉和樹	村上・小杉 (2012)	藤巻 (2012) にも掲載。
4	1994.5.1	北海道	礼文島	—	富川他 (1995)	富川ほか (1995)	藤巻 (2012) にも掲載。 2013 年 4 月 27 日にも確認。 礼文島では時々確認されて 居るので、おそらく毎年通 過しているのだと思われる (宮本誠一郎 私信)。
5	1998.4.30	北海道	礼文島	—	宮本誠一郎	宮本 (2013)	
6	1982.4.2 -2012.3.31	北海道	天売島	—	寺沢孝毅	寺沢 (2012) *	天売島では路肩の草地や芝 生などで、ほぼ毎年 5 月初 旬ごろにみられる。足をか がめて体を低くし、小さな 虫や種子などを食べる (寺 沢 2012)。4 月から 5 月に 渡来し、複数で観察される こともある (長谷部真 私信)。
7	1999.5	北海道	天売島	1	外山雅大	私信	背丈の低い草原の中を通る 遊歩道上を歩いていた (外 山雅大 私信)。
8	1995.5.6.	青森	外ヶ浜町 (旧三厩村) 宇鉄中学校 グラウンド	1	安藤一次	日本野鳥の会 野鳥記録検討会 (1996)	1995 年 6 月 21 日付の東 奥日報新聞記事にも掲載。
9	2011.4.24.	青森	仏沼	1	三戸貞夫	三戸 (2012)	
10	2013.4.16.	青森	仏沼	1	安藤一次	安藤 (2013)	
11	2013.4.28.	秋田	男鹿市船川港	1	遠藤他	遠藤ほか (2013)	秋田県ではこの記録が唯一 の記録である (佐々木均 私 信)。